

和食と絶妙 甲州ワイン

県観光部理事 仲田道弘さん(57)

—山梨のワインが世界のコンクールで賞を受賞するなど注目を集め、山梨の観光産業に欠かせない存在になっています。

—山梨のワインが厚感がない「薄っぺら」な印象でした。私は30歳から、県庁で地場産業活性化の担当を務めていましたが、「あまりおいしくなく、高価な酒をどうやって売るのか」と正直悩みました。ワイナリーの方々と話し合いの場を持ち、まずはブドウの品質と醸造技術の向上を図りました。ブドウの風味をより生かした従来とは異なる製法を取り入れてもらい、ワインのレベルが上がりました。行政の立場からは、それを消費者へ周知することが大切だと考えました。

◆もともと甲州ワインが「和食と合う」と注目され始めたきっかけは何ですか。

◆もともと甲州ワインが「和食と合う」と注目され始めたきっかけは何ですか。

人かおとく

観光編



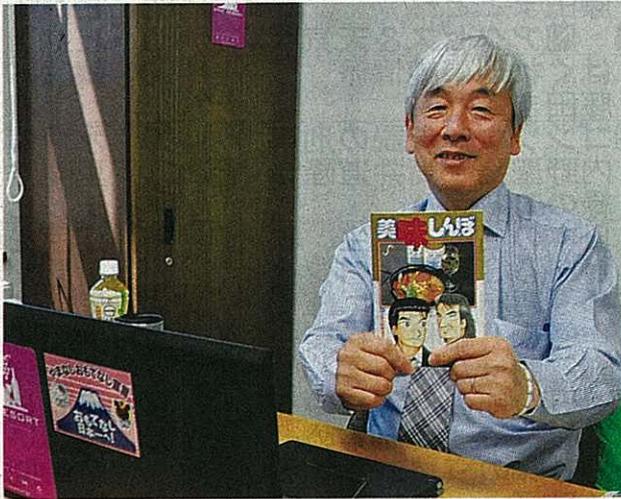
世界へのPR 後押し

注目を集め始めたのは、大ヒット漫画「美味しんぼ」に登場した。漫画に登場されたことです。雁屋さんに

—漫画に登場されたことです。雁屋さんに

甲府市の知人がいた縁で、山梨に白羽の矢が立ちました。私にも編集者から「ネタありませんか」と声が掛かり、

◆県内の郷土料理の店へ主人公らを案内する役で登場しました。実際に作者らを連れて1週間、取材に同行しました。当時、「ワイ



©雁屋哲・花映アキラ・小学館

「美味しんぼ」に登場する仲田さん
—小学館提供

ンは洋食に合わせて飲むのが増え、和食マーケットとされていま

—ブームの陰で甲州ブドウが足りない現状もあり。課題は

上げるか」でしたが、これから10年は、甲州ブドウをいかに増やすかにも力を注ぎます。ワイン用ブドウは、食用の高級ブドウほど高値は売れないので農家が作るには限界があります。ワイナリー自らが作る必要があります。

仲田道弘(なかだ・みちひろ) 1959年9月、白州町(現・北杜市)生まれ。筑波大卒業後、1982年に県に入庁。仕事で出会ったワイナリーの人たちの「甲州ワインを何とかしたい」との思いに触れ、産地活性化に取り組むことに。県庁内では「ワインの伝道師」の異名を持つ。

ワイナリーが増やしたい。峡東地域ではワイナリーが手を取り合って2016年から「峡東ワインリゾート構想」が始まりました。ワインを核に、地域の魅力にも触れてもらう滞在・周遊型観光です。東京五輪・パラリンピックに向けた国際会議が国内で始まり、27年にリニア中央新幹線も開通します。甲州ワインを広く世界に知ってもらうチャンスです。ワイナリーが観光客にPRできる仕組み作りを行政として後押ししていきたいです。

【田中理知】
— 随時掲載